

学校教育を取り巻く課題 について

2024年5月25日

1. 小牧市新たな学校づくり推進計画の策定

(1) 目的と背景

学校教育を取り巻く課題

- 児童生徒数の減少
- 学校施設の老朽化

将来を担う子どもたち
充実した教育環境が必要

新たな学校づくり推進計画

- ①学校施設の適正規模・適正配置
- ②子どもたちにとってより望ましい教育環境の基本的な考え方

を整理した計画策定

Ⅱ

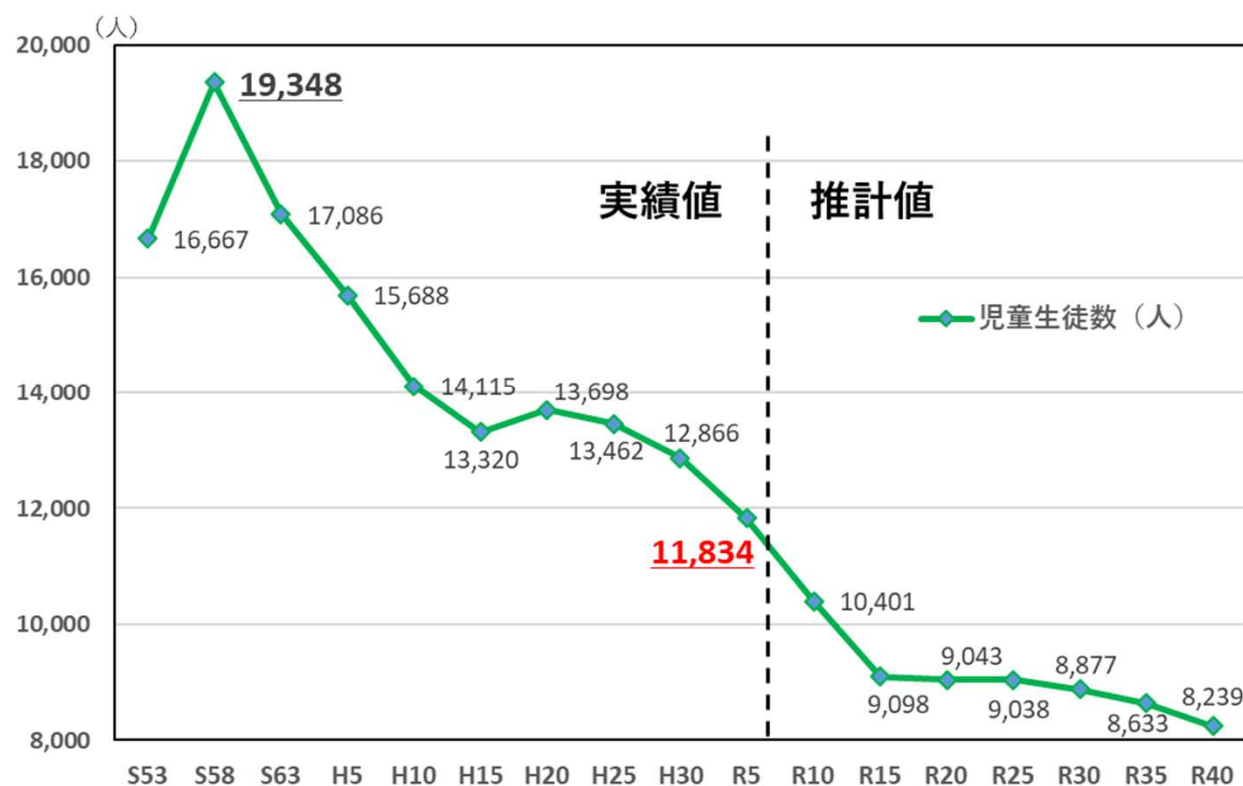
将来の教育環境整備の方針

2. 児童生徒数の減少からみる課題

(1) 児童生徒数の推移及び推計

①全体

- 昭和58年の19,348人を
ピークに減少傾向
- 令和5年には11,834人となり、
ピーク時の約61%まで減少
- 推計では、今後10年間の減少
が特に大きく、
令和15年には9,098人、
令和25年には9,038人、
令和35年には8,633人
となる見込み

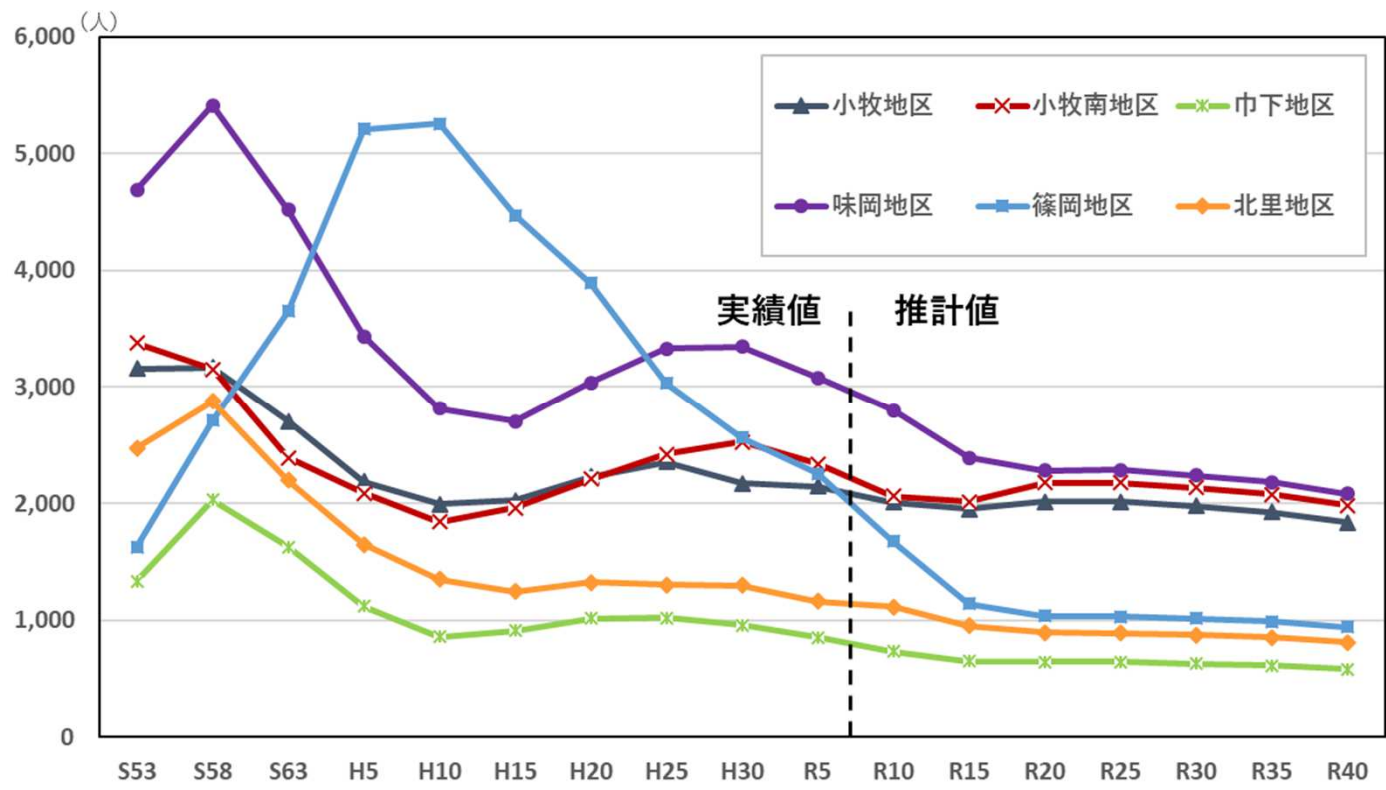


2. 児童生徒数の減少からみる課題

(1) 児童生徒数の推移及び推計

②地域別

○地区別の状況



2. 児童生徒数の減少からみる課題

(2) 学級数の推計

① 小学校

クラス数

学校名	R5年度							R10年度							R15年度							R20年度						
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計
小牧小	4	4	4	4	4	4	24	4	4	3	4	4	4	23	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24
村中小	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
小牧南小	4	4	5	5	4	4	26	3	3	4	4	4	4	22	4	4	4	4	4	3	23	4	4	4	4	4	4	24
三ツ淵小	1	2	2	2	2	2	11	1	1	2	2	2	1	9	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	2	1	7
味岡小	5	4	5	5	5	4	28	4	4	4	4	4	5	25	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24
篠岡小	1	2	2	2	2	2	11	1	1	1	1	2	1	7	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
北里小	2	2	3	3	2	3	15	2	3	2	3	3	2	15	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
米野小	3	4	5	4	4	4	24	4	3	3	4	4	3	21	4	4	4	4	4	4	24	4	4	4	4	4	4	24
一色小	3	3	3	3	3	3	18	3	2	2	3	3	3	16	3	3	2	2	2	3	15	3	3	3	3	3	3	18
小木小	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12	1	1	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	6
小牧原小	3	4	3	4	4	3	21	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18	3	3	3	3	3	3	18
本庄小	3	3	3	3	3	3	18	2	2	3	3	3	3	16	2	2	2	2	2	2	12	2	2	2	2	2	2	12
桃ヶ丘小	2	2	2	2	3	2	13	1	1	1	1	1	2	7	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
陶小	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
光ヶ丘小	2	2	2	2	2	2	12	1	1	2	2	2	2	10	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
大城小	1	2	2	2	1	2	10	1	1	1	1	2	1	7	1	1	1	1	1	1	6	1	1	1	1	1	1	6
合計	39	43	46	46	44	43	261	35	34	36	40	42	39	226	35	35	34	34	34	35	207	35	35	35	35	36	35	211

2. 児童生徒数の減少からみる課題

(2) 学級数の推計

②中学校

クラス数

学校名	R5年度				R10年度				R15年度				R20年度			
	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計	中1	中2	中3	計
小牧中	7	7	7	21	7	6	7	20	6	6	6	18	7	6	6	19
味岡中	7	6	6	19	6	6	6	18	5	5	5	15	5	4	4	13
篠岡中	2	2	2	6	2	2	2	6	1	1	1	3	1	1	1	3
北里中	5	4	4	13	4	4	4	12	4	3	3	10	3	3	3	9
応時中	7	7	6	20	7	7	7	21	5	6	6	17	7	6	6	19
岩崎中	5	4	4	13	5	5	4	14	4	4	4	12	4	3	3	10
桃陵中	5	4	4	13	4	3	3	10	2	2	2	6	2	2	2	6
小牧西中	3	2	3	8	2	3	2	7	2	2	2	6	2	2	2	6
光ヶ丘中	2	3	3	8	2	2	3	7	2	2	2	6	2	1	1	4
合計	43	39	39	121	39	38	38	115	31	31	31	93	33	28	28	89

2. 児童生徒数の減少からみる課題

(3) 小規模校の利点

<人間関係面>

- 人間関係が深まりやすい
- 異学年の交流が活発になる

<教育面>

- 一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導がしやすい

<学校運営面>

- 教員の数が少なくなる ⇒ 教員間の意思疎通がしやすい
学校が一体となって活動しやすい

<その他>

- 保護者や地域社会との連携がしやすい

2. 児童生徒数の減少からみる課題

(4) 小規模校の課題

<人間関係面>

- **多様な他者**との触れ合いが困難 ⇒ **高校や社会**に出てから戸惑い
- クラス替えが困難、**子どもの関係が固定化** ⇒ **人間関係のリスタート・改善**がしにくい

- **自分にあった**相談しやすい**教員が少なくなる**

<教育面>

- **多様な考え**が出にくい
- **切磋琢磨**ができにくい
- **部活動・委員会**等の多様な場の確保ができなくなる

<学校運営面>

- **教員**の数が**少なくなる** ⇒ **経験の浅い教員の育成**が困難
⇒ **病欠等での対応**、学年間での協力が困難

<その他>

- **PTA役員**の選任が困難



適正な学校規模を維持していくため、**学校再編を検討**する必要がある。

3. 学校施設の老朽化からみる課題

(1) 学校施設の状況

① 小学校

- 16校中8校、全体の**50%が築年数50年以上**を経過
- 目標耐用年数である80年を半分経過した築40年以上も合わせると
16校中12校、全体の75%が老朽化による**対策が必要**な状況

学校名	建築年度		築年数	80年までの残数
米野小学校	昭和44	1969	55	25
篠岡小学校	昭和33	1958	66	14
三ツ渚小学校	昭和36	1961	63	17
北里小学校	昭和37	1962	62	18
村中小学校	昭和39	1964	60	20
味岡小学校	昭和41	1966	58	22
一色小学校	昭和44	1969	55	25
小木小学校	昭和49	1974	50	30

学校名	建築年度		築年数	80年までの残数
小牧原小学校	昭和50	1975	49	31
本庄小学校	昭和50	1975	49	31
桃ヶ丘小学校	昭和50	1975	49	31
陶小学校	昭和59	1984	40	40
光ヶ丘小学校	昭和62	1987	37	43
大城小学校	平成元	1989	35	45
小牧小学校	平成23	2011	13	67
小牧南小学校	令和3	2021	3	77

耐用年数80年までの年数



～30年



31～50年



51年以上

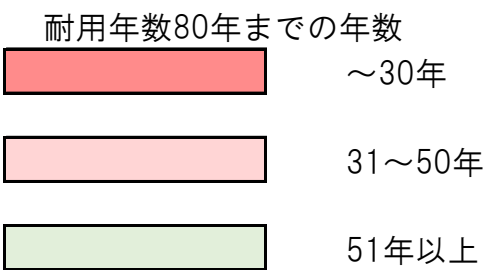
3. 学校施設の老朽化からみる課題

(1) 学校施設の状況

② 中学校

- 9 校中 3 校、全体の **33%** が **築年数 50 年以上** を経過
- 目標耐用年数である 80 年を半分経過した築 40 年以上も合わせると **9 校中 6 校、全体の 67%** が **老朽化** による **対策が必要** な状況

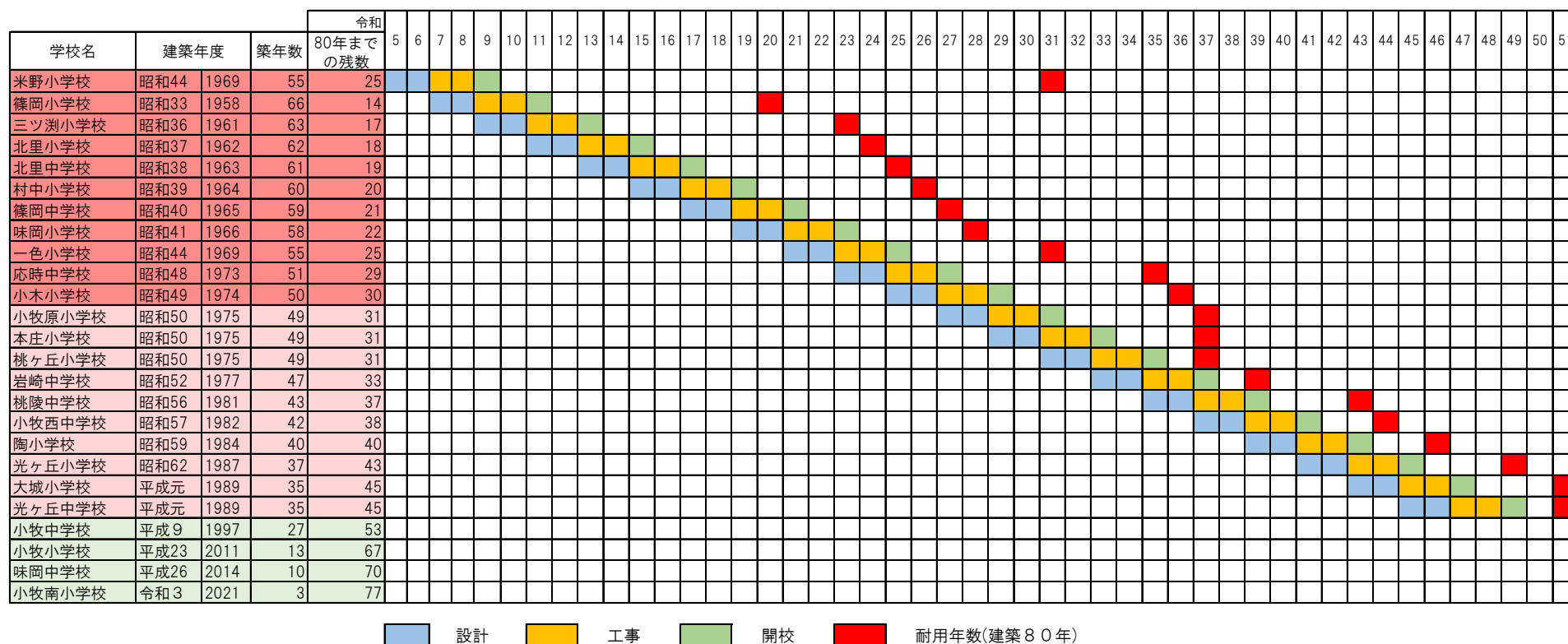
学校名	建築年度		築年数	80年までの 残数
北里中学校	昭和38	1963	61	19
篠岡中学校	昭和40	1965	59	21
応時中学校	昭和48	1973	51	29
岩崎中学校	昭和52	1977	47	33
桃陵中学校	昭和56	1981	43	37
小牧西中学校	昭和57	1982	42	38
光ヶ丘中学校	平成元	1989	35	45
小牧中学校	平成9	1997	27	53
味岡中学校	平成26	2014	10	70



3. 学校施設の老朽化からみる課題

(2) 目標耐用年数内に建替えを行う場合のイメージ

○既存の学校を全て、**目標耐用年数 80 年以内に建替え**とした場合、
令和 7 年以降、**2 年に 1 校ずつ建替え**を行い、新校舎を開校していかなければならない状況



負担を一時期に集中させないために、学校再編を検討した上で、無理のない建替えを計画的に実施する必要

4. よりよい教育環境をつくるために

(1) 学び合う学び

「学び合う学び」の授業実践

現
状

子ども同士の関わり、他者との関わりの中から、新たな気づきを見つけ、
多様な考えを認め合いながら学びを深める

- 課題解決に向け、相手の考えを否定せず、聴き合う
- 自分の考えを再構築していく姿勢
- わからない子に寄り添って、相手に伝わる言葉



課
題

「学び合う学び」では、多様な他者と協働した探究的な学びを行うため、
一定の集団規模が確保されていることが望ましい

4. よりよい教育環境をつくるために

(2) 小牧市が目指す教育の実現に向けて

求められること

- 性別、国籍、個性、能力、育った環境の違う**多様な他者、多様な価値観**の中で、**思考力・判断力・表現力や、社会性・人間関係を形成する力を育む場**
- 子どもたちに**豊かな学びを保障**するためには、全ての教育活動において、子どもたちが**様々な見方や考え方、価値観、文化等の多様性に触れる機会が重要**
- 義務教育9年間の学びと育ちをさらに繋いでいくことが必要

- 多様性**に触れる・**人間関係の固定化**を防ぐためには、クラス替えができる**適正な学校規模を維持していく必要がある**
- 系統性・連続性**に配慮した特色ある教育活動が必要



4. よりよい教育環境をつくるために

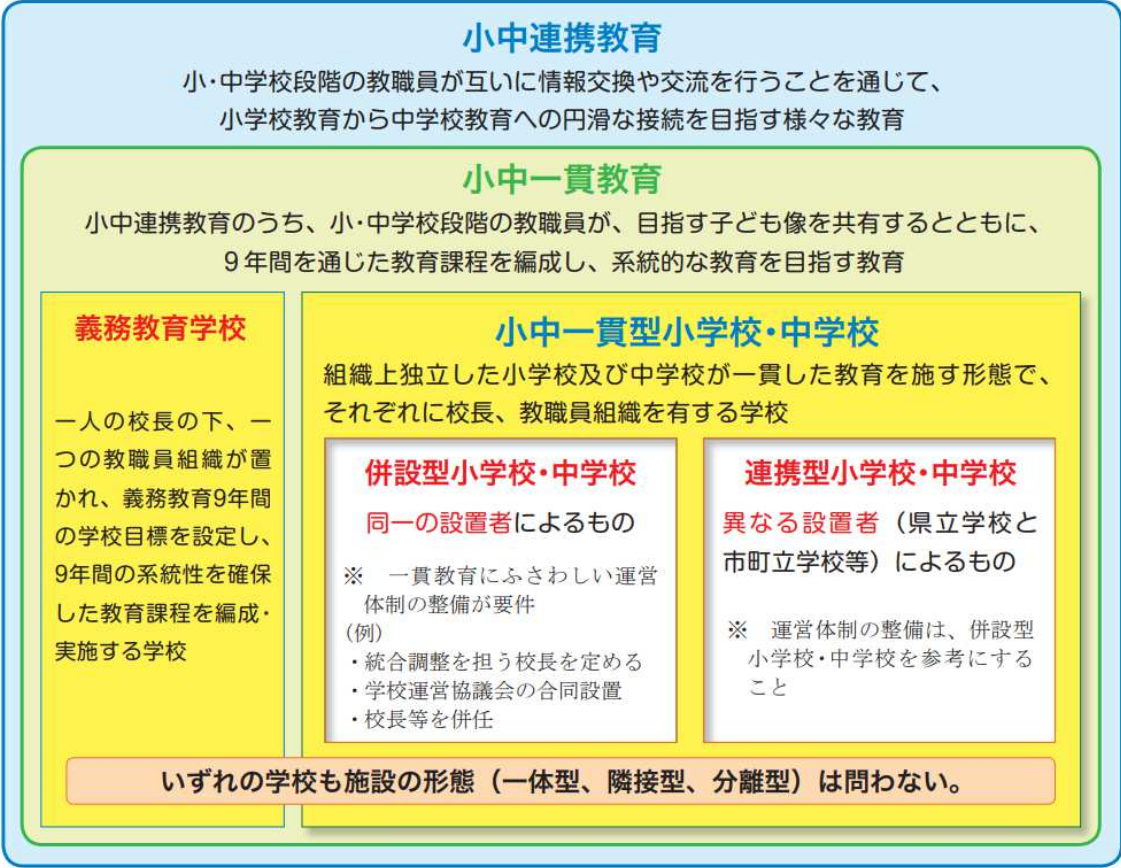
(3) 質の高い教育を実現するための小中一貫教育

義務教育 9 年間を通じた教育課程を編成し、
小中一貫する教育を行う

小中一貫型小学校・中学校

(以下、「**小中一貫校**」という。)

- 一体型** …小・中学校が同じ建物を共有している
- 隣接型** …小・中学校の校舎が隣接している
- 分離型** …従来の小・中学校と同じように、
建物が離れている



5. 今後の取り組み

(1) 学校再編に向けた考え方

① 学校の適正規模

- 学校教育では、子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力を伸ばしていくことが重要であり、このような教育環境を確保するためには、**子どもたちが一定規模の集団生活の中で多くの人と関わり合いながら生き活きと学び合う学校生活を送ることができる学校規模が必要**である。
- 小牧市では、学校の適正規模を次のとおりとする。

小学校	…	1校あたり 12学級から24学級 (1学年あたり2学級から4学級)
中学校	…	1校あたり 12学級から24学級 (1学年あたり4学級から8学級)
- 適正規模の条件を満たさない学校については、小規模校・大規模校の課題の解消に努める必要があるが、**地域の事情に応じて、弾力的な運用が必要**である。



5. 今後の取り組み

(1) 学校再編に向けた考え方

②適正規模への対応の在り方

- 転出入や住宅開発等により、適正規模を一時的に下回ったり上回ったりする学校があったとしても、その期間が数年程度であれば、適切な対応策を講じることにより、適正規模の学校とほぼ同様の教育環境を保つことができると考える。
- しかしながら、中長期的に適正規模を保つことが見込まれない学校については、**適正規模を確保するため**、各地域の実情に応じながら、**通学区域の変更や学校の再編を検討する**。

5. 今後の取り組み

(1) 学校再編に向けた考え方

③学校の適正配置

- 学校の配置では、子どもたちの通学を考慮する必要がある。
通学区域の変更や学校の再編に伴い、通学区域が拡大する場合は、遠距離通学となる地域が生じることが見込まれるため、子どもたちの負担面や安全面を考慮し、次のような視点で検討していく。

<通学距離・通学時間>

小学校は、おおむね **4 km以内**（おおむね **1 時間以内**）を目安とする。
中学校は、おおむね **6 km以内**（おおむね **1 時間以内**）を目安とする。

通学距離（R5年度）

<小学校>

1 km未満	6,049人（78.5%）
2 km未満	1,579人（20.5%）
3 km未満	74人（ 1.0%）
3 km以上	0人（ 0.0%）

<中学校>

1 km未満	2,216人（53.8%）
2 km未満	1,750人（42.4%）
3 km未満	157人（ 3.8%）
3 km以上	0人（ 0.0%）

※ 自宅から学校までの直線距離で算出 ※ 一部の児童生徒は通学団の集合場所からの距離

5. 今後の取り組み

(1) 学校再編に向けた考え方

③学校の適正配置

<通学の安全確保>

通学区域の変更や学校の再編に伴い、通学距離や通学路の変更等が生じることが想定される。保護者や子どもたちへのアンケートにおいても、通学の安全性や通学にかかる時間が心配されている。

子どもたちが**安心して学校に通うことができる**よう、**通学距離や学年等を考慮し、必要に応じて自転車による通学や公共交通機関の利用、通学バスの導入等を検討**する。

また、新たに通学路となる場所については、安全点検や安全対策、見守りボランティアなどの地域で見守る体制の再構築などを実施し、通学路の安全確保に努める。

5. 今後の取り組み

(1) 学校再編に向けた考え方

④ 学校施設の老朽化

- **目標耐用年数の80年を目途に建て替えを検討**する。その際には、各地域の児童生徒数の動向等もあわせて考慮し、必要に応じて通学区域の変更や学校再編を検討した上で、地域の新たな学校づくりを行う。

5. 今後の取り組み

(1) 学校再編に向けた考え方

⑤小中一貫教育

- **義務教育9年間の学びと育ちをさらに繋いでいく**ために、9年間を通じた教育課程を編成し、**小中一貫教育の導入を検討**する。
- 新たな学校づくりを行う際には、可能な限り、**施設一体型の小中一貫校の設立を視野に検討**する。施設一体型の小中一貫校の設立が困難な場合には、地域の実情に応じ、隣接型や分離型を検討する。

小中一貫校

- 一体型 …小・中学校が同じ建物を共有している
- 隣接型 …小・中学校の校舎が隣接している
- 分離型 …従来の小・中学校と同じように、建物が離れている

5. 今後の取り組み

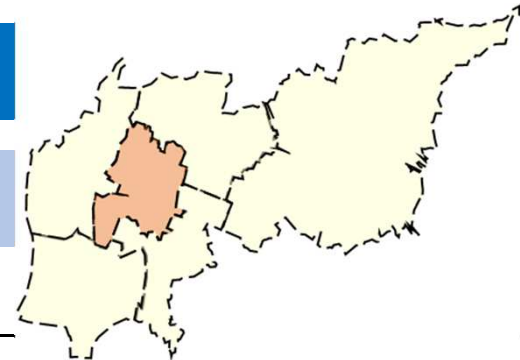
(1) 学校再編に向けた考え方

⑥再編に伴う学校跡地の利活用

- 学校は、子どもたちの学校生活の場としてだけでなく、地域にとってもスポーツや生涯学習、防災などの重要な拠点となっている。
- 学校再編に伴って学校としての用途が不要となった学校跡地については、**校舎の維持等について検証**するとともに、引き続き、地域がスポーツ活動の場や災害時の避難場所などの機能を維持することができるよう、**学校跡地内の体育館やグラウンドの継続利用や地域への開放などの利活用を検討**する。

5. 今後の取り組み

(2) 学校再編のイメージ



①小牧地区（小牧小、小牧原小、小牧中）

- **小学校**はいずれも**全学年3学級以上**、**中学校**は**全学年6学級以上**となる見込みである。
- 今後、児童生徒数の減少は見込まれるが、その推移は緩やかであり、上記のとおり**当面の間は適正規模を確保**できるため、早急な対応は必要ないと考えられる。

R5年

R15年推計

小牧小学校 (720人、24学級) → (706人、24学級)

小牧原小学校 (655人、21学級) → (588人、18学級)

小牧中学校 (772人、21学級) → (656人、18学級)



再編のイメージ

小学校2校

R15年推計

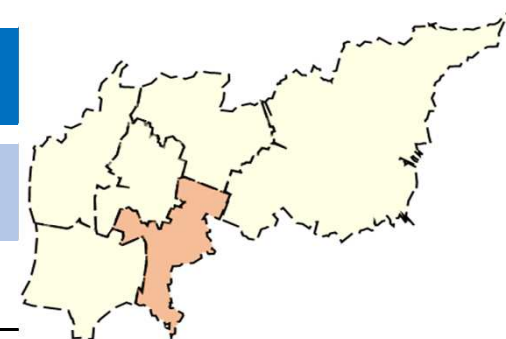
(小学校計 1,294人、42学級)

中学校1校

R15年推計

(中学校計 656人、18学級)

※R15までに再編を行うというものではありません。



5. 今後の取り組み

(2) 学校再編のイメージ

②小牧南地区（小牧南小、米野小、応時中）

- 小学校はいずれも**全学年3学級以上**、中学校は**全学年5学級以上**となる見込みである。
- 今後、児童生徒数の減少は見込まれるが、その推移は緩やかであり、上記のとおり**当面の間は適正規模を確保**できるため、早急な対応は必要ないと考えられる。

R5年

R15年推計

小牧南小学校（823人、26学級）→（726人、23学級）

米野小学校（798人、24学級）→（699人、24学級）

応時中学校（715人、20学級）→（588人、17学級）



再編のイメージ

小学校2校

R15年推計

（小学校計 1,425人、47学級）

中学校1校

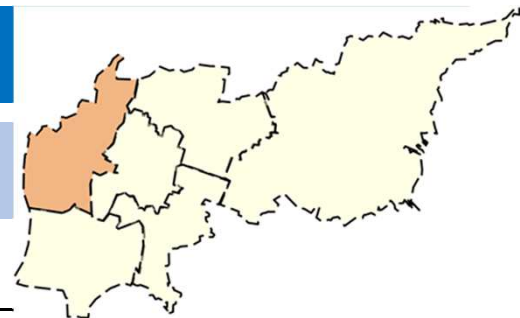
R15年推計

（中学校計 588人、17学級）

※R15までに再編を行うというものではありません。

5. 今後の取り組み

(2) 学校再編のイメージ



③ 巾下地区（村中小、三ツ渚小、小牧西中）

- **三ツ渚小学校**は令和14年度に**全学年 1 学級**に、**小牧西中学校**は令和12年度に**全学年が 2 学級**となる見込みである。両校とも適正標準を大きく下回るため、**小規模校の課題の解消策や緩和策**を速やかに検討・実施する等の対応が必要である。
- **村中小学校**においては、適正標準を満たしているため、早急な対応が必要であるわけではないが、今後、**児童生徒数の動向を注視**していく必要がある。

R5年	R15年推計
村中小学校 (321人、12学級)	→ (261人、12学級)
三ツ渚小学校 (283人、11学級)	→ (195人、6学級)
小牧西中学校 (248人、8学級)	→ (192人、6学級)



再編のイメージ

小学校 1 校

R15年推計
(小学校計 456人、18学級)

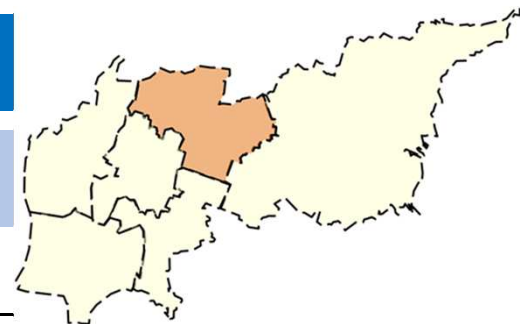
中学校は、隣接する地区の 中学校へ統合

R15年推計
(中学校計 192人、6学級)

※R15までに再編を行うというものではありません。

5. 今後の取り組み

(2) 学校再編のイメージ



④ 味岡地区（味岡小、一色小、本庄小、味岡中、岩崎中）

- 令和15年度まで、全ての小中学校において適正標準を満たす見込みである。
- ただし、**岩崎中学校**においては、令和16年度以降は**適正標準を下回る**見込みであるため、**小規模校の課題の解消策や緩和策**を検討・実施する等の対応が必要である。
- また、**一色小学校**及び**本庄小学校**においては、適正標準を満たしているため、早急な対応が必要になるわけではないが、今後、全学年2学級になる見込みであるため、**児童生徒数の動向を注視**していく必要がある。

R5年	R15年推計
味岡小学校（879人、28学級）	→（685人、24学級）
一色小学校（517人、18学級）	→（423人、15学級）
本庄小学校（563人、18学級）	→（347人、12学級）
味岡中学校（665人、19学級）	→（551人、15学級）
岩崎中学校（456人、13学級）	→（387人、12学級）



再編のイメージ

小学校2校

R15年推計

（小学校計 1,455人、51学級）

中学校2校

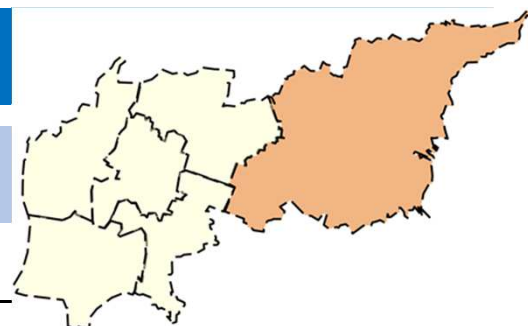
R15年推計

（中学校計 938人、27学級）

※R15までに再編を行うというものではありません。

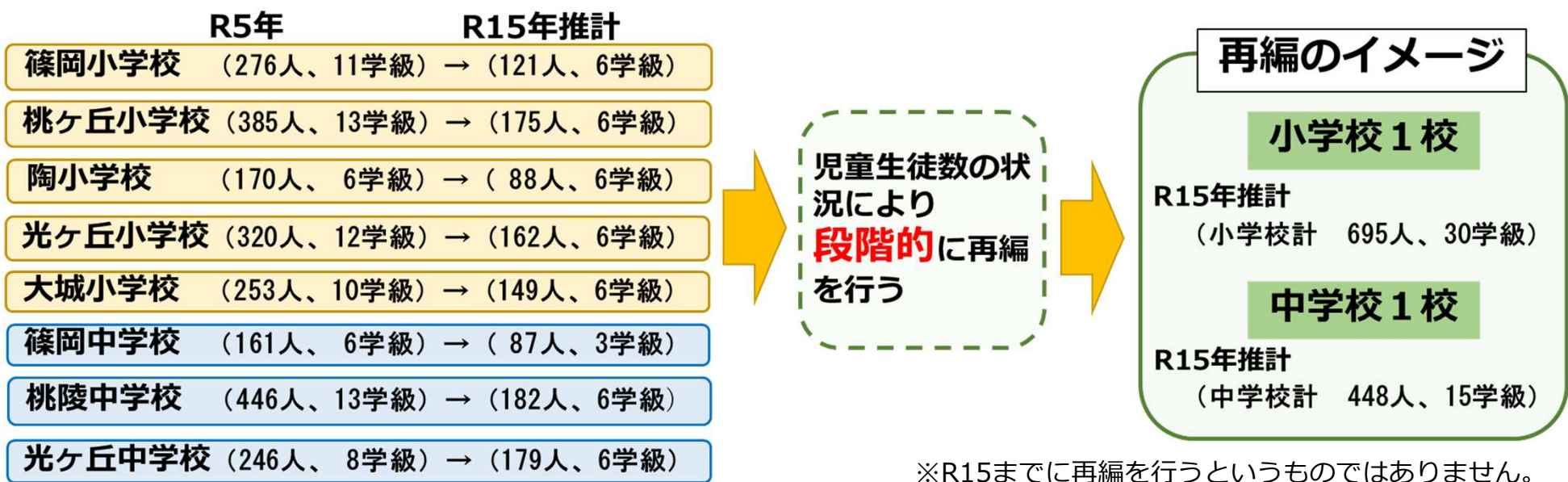
5. 地区ごとの課題について

(2) 学校再編のイメージ



⑤ 篠岡地区 (篠岡小、桃ヶ丘小、陶小、光ヶ丘小、大城小、篠岡中、桃陵中、光ヶ丘中)

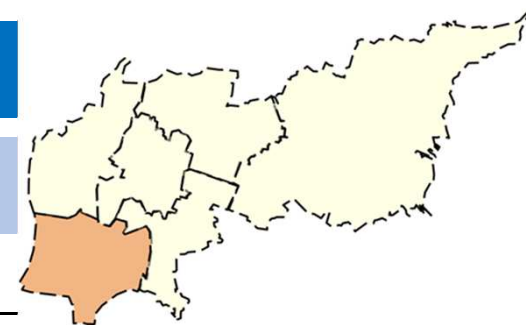
- 令和9年度には、**全ての小中学校**において**適正標準を下回り**、令和13年度に**篠岡中学校**が**全学年1学級**に、令和14年度に**全ての小学校**が**全学年1学級**になる見込みである。
- 全ての小中学校が適正標準を大きく下回る見込みであるため、**小規模校の課題の解消策や緩和策**を速やかに検討・実施する等の対応が必要である。



※R15までに再編を行うというものではありません。

5. 今後の取り組み

(2) 学校再編のイメージ



⑥北里地区（北里小、小木小、北里中）

- **小木小学校**は令和11年度に、**北里中学校**は令和14年度に、**適正標準を下回る**見込みである。
- 特に、**小木小学校**は令和16年度に**全学年 1 学級**になる見込みであるため、**小規模校の課題の解消策や緩和策**を速やかに検討・実施する等の対応が必要である。
- **北里小学校**は、適正標準を満たしているため、早急な対応が必要であるわけではないが、今後、全学年 2 学級になる見込みであるため、**児童生徒数の動向を注視**していく必要がある。

R5年	R15年推計
北里小学校（461人、15学級）	→（386人、12学級）
小木小学校（286人、12学級）	→（219人、7学級）
北里中学校（415人、13学級）	→（346人、10学級）



再編のイメージ

小学校 1 校

R15年推計
（小学校計 605人、19学級）

中学校 1 校

R15年推計
（中学校計 346人、10学級）

※R15までに再編を行うというものではありません。

5. 今後の取り組み

(3) 学校再編の進め方

① 優先度

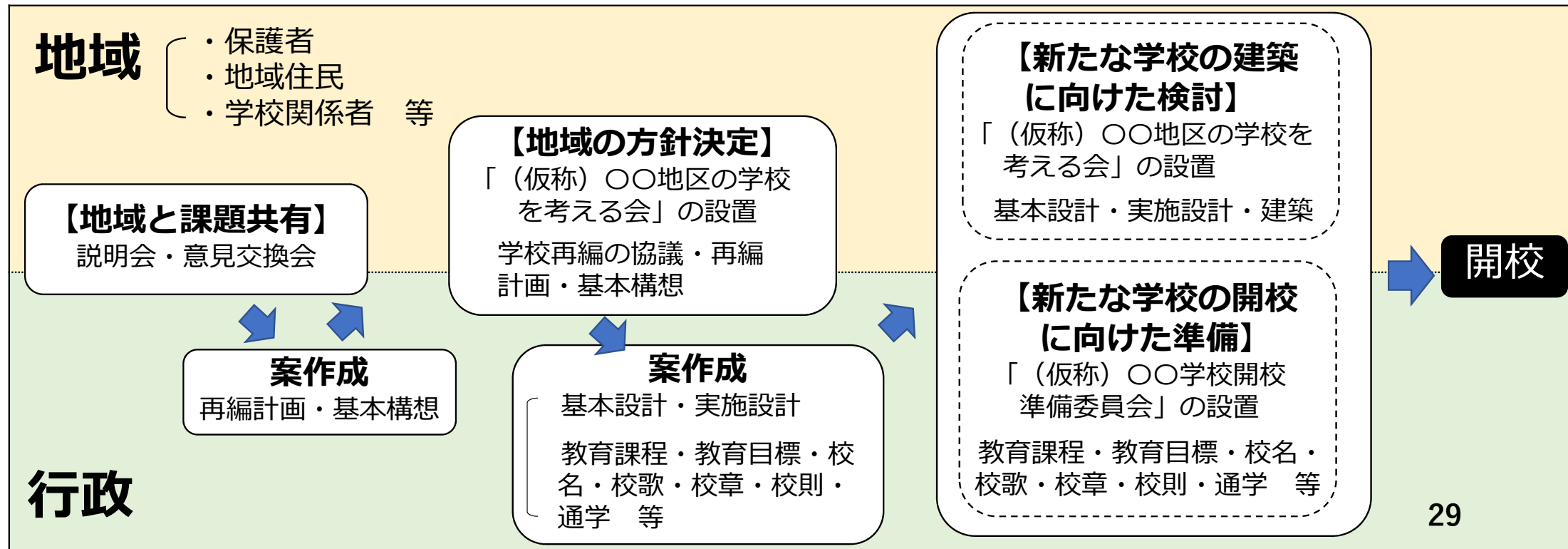
- **三ツ渚小学校、小牧西中学校、篠岡地区の全ての小中学校、小木小学校**及び**北里中学校**は、いずれも小牧市における学校の**適正規模を下回る**見込みであるため、早急に適正規模に近づける取組が必要である。
- また、**建築から60年以上**を経過した**村中小学校、三ツ渚小学校、篠岡小学校、北里小学校、北里中学校**の5校は、今後の対応を早急に決めなければならない状況である。
- 以上のことから、これらの学校が立地する、**巾下地区、篠岡地区、北里地区**を対象に、**優先的に**保護者、教職員、地域の方々と交えた**学校再編の協議を開始**する。
- 残りの小牧地区、小牧南地区、味岡地区については、先に協議を開始した3地区の経過により、**必要に応じて味岡地区を優先**して協議を開始することとする。

5. 今後の取り組み

(3) 学校再編の進め方

②新たな学校づくりに向けた協議の流れ

○ 学校の再編には、多くの手続きが必要になるため、丁寧な地域との合意形成に努めながら、次のような流れで協議を進める。



ご清聴ありがとうございました

小牧市教育長 中川 宣芳